

露地・貯蔵すだちの次世代産地プロジェクト



目的

露地・貯蔵すだちの生産量の減少傾向が続く中、意欲ある担い手や農業法人等を対象として平坦地域を中心に新植を推進することで経営規模拡大を図るとともに、新たな栽培者が取り組みやすい環境を整え、新規栽培者を確保することで、すだちの生産量の維持を目指す

現状・課題

- 〈産地概要〉
- 露地すだち栽培は、園地の大半が中山間の傾斜地にあり、人力中心の作業体系、盛夏期に作業が集中する等作業負担が大きい
 - 一部の地域では、意欲ある担い手により計画的な改植が行われている
 - 一方、高齢化による管理不足や老木化により生産力の低下を招き、**近い将来に廃園となる可能性が高い園地が急増**
- 〈新たな動き〉
- 農業法人等による平坦地への新植が進みつつある
 - 新品種「勝浦1号」の苗供給が、R6年に開始
- イノベーションによる現状打開
- 次世代産地の実現には、**「①新たな担い手の積極的な確保」「②意欲のある担い手による新植・改植」「③省力化技術等の導入」が必要不可欠**
- 生産体制の構造的な立て直しが必要

連携・推進体制

県 農業支援センター
農産園芸研究課
農業大学校
生産流通課
経営推進課
生産基盤課
農山漁村振興課
農地政策室

関係団体
関係町村
関係JA
JA全農とくしま
農地中間管理機構
意欲ある農業法人
農業会議

課題解決に向けて

○支援対象の明確化 ①担い手がいる生産者 ②新植を進める法人等 ③新規栽培者

○新たな担い手の確保

- ・新規就農者の確保取組の継続・強化（町村、NPO法人、JA）
神山町と佐那河内村の農業指導班での活動支援
- ・貯蔵すだちをメインとした複合経営モデル策定
（例）すだち+キウイフルーツ+ゆず（農産園芸、支援C）
- ・経営モデル提案による担い手の確保（支援C）
- ・新規就農者の育成プログラムの構築（町村、JA、支援C）

○廃園化の回避（保有資産の有効活用）

- ・新規栽培者へのマッチング支援（町村、NPO法人、JA）
- ・放任園早期再生技術の実証（農産園芸、支援C、JA）
新たな担い手への園地引継ぎのための技術実証
- ・事業継承の支援（農業会議）

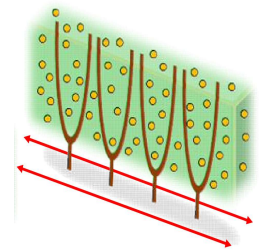
○平坦地への新植

農地耕作条件改善事業等の活用

- ・担い手、農業法人による平坦地新植を支援（支援C、農産園芸）
省力生産システムの実証、基盤整備による団地化を検討
- ・労働環境に配慮した施設整備の支援（農地）
- ・平坦地省力化経営モデルの策定（農産園芸、支援C）

○労力面・経営面の改善

- ・省力化栽培管理技術の導入実証・普及（支援C、JA）
樹形改造・点滴かん水・スマート農業技術
- ・簡易貯蔵技術（短中期）の導入推進（支援C、JA）
- ・晩生すだち「勝浦1号」導入推進による貯蔵出荷の強化（農産園芸）
- ・労働力確保のための仕組みづくりの検討（JA、町村、支援C）
農福連携、生産者間の労働補完の強化、副業制度の活用検討



省力樹形

目指すべき姿

・平坦地への新植が進み、スマート技術等により軽労化が図られ、生産性が飛躍的に向上している。
・中山間産地では、担い手により生産が維持されるとともに、円滑な事業継承により、新規栽培者が定着している。

- 【成果指標】
- ・平坦地での新植（R6からの累計）（R6）1ha→（R8）3ha→（R10）5ha
 - ・園地の貸借マッチング件数（R6からの累計）（R6）0件→（R8）3件→（R10）5件



スマート農業技術



収穫時の果実（R2.9.16）
左：勝浦1号 右：在来系

新品種「勝浦1号」